

和歌山県内経済情勢報告

(令和7年1月判断)

1. 総論

【総括判断】「持ち直している」(判断を据え置き)

項目	前回(6年10月判断)	今回(7年1月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 令和7年1月判断は、前回6年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、持ち直している。生産活動は、足踏みの状況にあるほか、雇用情勢は、緩やかに持ち直しているなど、全体としては、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回(6年10月判断)	今回(7年1月判断)	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	6年度は前年度を上回る見込み	6年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	6年度は増益見込み	6年度は減益見込み	↘

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、アメリカの今後の政策動向、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、値上げの影響から客単価が上昇しているものの、節約志向がみられることから飲食料品の売上がおおむね横ばいとなっているほか、温暖な気候が続き、秋物衣料品の需要が低調であったことから衣料品の売上が減少している。

コンビニエンスストア販売は、価格上昇の影響がある一方で、節約志向の高まりを受けていることから横ばいの状況となっている。

ドラッグストア販売は、風邪薬などの医薬品の売上が増加しており、堅調に推移している。

家電大型専門店販売は、エアコンなどが低調となっていることから、前年の売上を下回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通車で前年を上回っているものの、小型車、軽自動車では前年を下回っている。

観光動向は、県内主要観光地において、円安の影響などにより外国人観光客数が増加していることから、観光客数が堅調に推移しており、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 前年度と比べると来店客数や買上げ点数は減少、客単価は上昇するという傾向が継続しており、売上はおおむね横ばいとなっている。気温があまり下がらなかったことから衣料品の売上は伸びなかった一方で、足下ではキャベツや白菜などの葉物野菜が高騰している影響を受けて、農産物の売上が増加している。(百貨店・スーパー)
- 風邪薬や解熱剤などの医薬品の売れ行きが好調だったほか、年末年始にかけて抗原検査キットを購入する顧客が増加した。(ドラッグストア)
- エアコンについては、猛暑の影響で夏場に売れ行きが好調となった反動があることに加え、電気ヒーターなどの暖房器具の需要が高まることもあって、売上が落ち込んでいる。(家電量販店)
- 認証不正問題の影響は、車種によっては緩和されているものの、通常と比較して納車に要する期間が長くなっている車種も一部ある状況。(自動車販売店)
- 行楽シーズンで観光地としての人気が高まったことから、観光客数が増加しており、国内観光客、外国人観光客ともにコロナ禍前の水準を上回っている。カイロスの打上げについては、天候不順による二度の延期後にも、多くの観覧者が訪れていた。(公共団体)
- 宴会需要が回復していることなどから年末の売上が特に好調だったこともあり、今期の売上は前年を上回っており、コロナ禍前と同水準まで回復している。(飲食サービス)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

鉱工業生産指数でみると、「機械工業」などは低下しているものの、「化学工業」などは上昇している。

企業からは、中国経済減退の影響が継続していることなどから生産量が停滞しているとの声が聞かれており、生産活動は、足踏みの状況にある。

(主なヒアリング結果)

- 中国の内需が引き続き低調となっているほか、欧州でもインフレの影響で個人消費が低調となっており需要が落ち込んでいるなど、海外向けの受注が低迷している。(生産用機械)
- ビルや商業施設の建設現場での人手不足により、工期が遅れていることから、生産量の伸びが想定を下回っている。(金属製品)
- 柔軟剤やハミガキ製品の改良品が発売されたことに伴って、生産量が増加している。(化学)
- AI データセンターの需要が高まっていることから、電子材料向け製品の受注が増加している。(化学)
- エネルギー関連製品の需要は、中国向けで経済停滞などにより低調となっているものの、中東や米国向けでは引き続き好調であるほか、自動車関連製品の需要も緩やかに回復しつつある。(鉄鋼)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、おおむね横ばいで推移しているほか、新規求人数は、建設業や運輸業、郵便業で求人が増加していることなどからおおむね横ばいで推移しており、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 「運輸業、郵便業」について、物流センターの新規開設に向けた求人や、業務多忙を受けて例年より多くの倉庫作業員の求人があったほか、「建設業」について、公共工事を受注できたことで求人を増やした企業があり、新規求人数が増加している。(公的機関)
- 慢性的に人手不足となっており、特に高校生の採用に苦戦しているため、就職フェアや県内の工業高校を対象にした就職説明会への参加、ホームページの更新や採用パンフレットの作成などに力を入れている。(金属製品)
- 従業員の不足分はハローワークで確保していたが、応募が少なく求める人材とのマッチングもしにくいいため、コストをかけてでも民間の求人サイトで募集を行っている。(化学)
- 一部の店舗でパート職員が不足しており、時給を上げて募集をしても応募が少ない状況である。年収の壁を考慮して労働時間を減らしているというパート職員も多くおり、人手不足感が強まる一因となっている。(百貨店・スーパー)
- 人手不足の状態が続いており、改善する見込みがないため、配膳ロボットや全自動の炊飯器の導入など、省人化、省力化にかかる設備投資を進めている宿泊施設も多い。(観光関係団体)

■ 設備投資 「6年度は前年度を上回る見込み」

法人企業景気予測調査(令和6年10-12月期調査)でみると、6年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「6年度は減益見込み」

法人企業景気予測調査(令和6年10-12月期調査)でみると、6年度の経常利益は、全産業で減益見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに減益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を下回る」

新設住宅着工戸数(3ヶ月後方移動平均値)でみると、前年を下回っている。内訳でみると、持家、貸家、分譲すべてで前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を上回る」

前払金保証請負金額(年度累計額)でみると、前年を上回っている。内訳でみると、市町村、独立行政法人等で前年を下回っているものの、国、県で前年を上回っている。

■ 企業倒産 「倒産件数は前年を下回っているものの、負債総額は前年を上回っている」

倒産件数は前年を下回っているものの、負債総額は前年を上回っている。

■ 景況判断 「「下降」超となっている」

法人企業景気予測調査(令和6年10-12月期調査)の景況判断BSIでみると、全産業で「下降」超となっている。

産業別では、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。

規模別では、大企業で「上昇」と「下降」が均衡しているものの、中堅企業、中小企業で「下降」超となっている。